

令和4年度 東北農業試験研究推進会議 作物生産推進部会
農業経営研究会（夏期） 開催要領

東北農業試験研究推進会議 作物生産推進部会長
農研機構東北農業研究センター
水田輪作研究領域長 迫田登稔

1. 趣 旨

農林水産省は、「みどりの食料システム戦略」において、2040年までに主要な品目において次世代有機農業に関する技術確立し、2050年までに耕地面積に占める有機農業の取組面積割合を25%に拡大させるとしている。それを支援するため、農研機構においても有機農業拡大に向けた技術の開発・実証に取り組むこととし、その中でも有機稲作農家に共通の課題である除草作業の省力化を現地実証の一つの柱としている。実証地である秋田県大潟村は、早くから有機稲作の取組みが盛んである一方、近年では除草作業における労働力不足が導入面積の維持・拡大の障害となっている。

そこで、「みどり戦略」に対する研究的アプローチの一例として、大潟村の有機農業の現状と、そこで農研機構が実証する研究項目の目標や課題を俎上に上げて検討する。また将来的に実証技術の横展開を図っていくため、大区画で干拓地という大潟村の特殊性を踏まえ、横展開を可能とするための技術開発、実証の取組みや普及の方向性についても意見交換する。

2. 開催日時 令和4年7月27日（水） 13:15～16:45

3. 会 場 オンライン会議（Microsoft Teams）

4. 議 題

検討課題「東北大区画水田地帯における有機農業の状況と技術の横展開への課題」
～大潟村での有機農業の現状と「みどり戦略」に対応した技術開発を対象に～
話題提供：

基調講演 「大潟村干拓の歴史的展開と有機農業への取組み（仮）」

秋田県立大学 名誉教授 金田 吉弘

『みどり戦略』に関連して農研機構が大潟村で行う実証研究の課題と展望（仮）」

農研機構東北農業研究センター 川名義明

「大潟村での有機農業実証研究における経営的評価の課題と展望（仮）」

農研機構東北農業研究センター 笹原和哉・安江紘幸・狗巻孝宏

「コメント」大潟村役場 松橋秀男

5. 参集範囲

国立研究開発法人等研究機関および公設試験研究機関、東北農政局、県行政・普及部局、大学、農協等関係団体、その他運営責任者が必要と認める者

6. 連絡先（事務局）

農研機構東北農業研究センター 水田輪作研究領域 水田輪作グループ 笹原和哉

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4

TEL:019-643-3493 FAX:019-641-7794 E-mail:sasa@affrc.go.jp

7. その他

資料提出などの詳細については、別途、事務連絡します。